

2013年8月12日

各 位

積 水 ハ ウ ス 株 式 会 社

代表取締役社長： 阿 部 俊 則

本社： 大阪市北区大淀中1-1-88

福島初 全棟ゼロエネルギー住宅「グリーンファースト ゼロ」のスマートタウン 「スマートコモンステージ森合」販売開始

3電池連動で停電時も電気とお湯が使える「安心拠点」を定めた計画防災タウン

積水ハウス株式会社は、福島県福島市において、全棟がゼロエネルギー住宅※「グリーンファーストゼロ」となるスマートタウン「スマートコモンステージ森合」の販売を8月12日から開始します。全37棟の内、定められた14棟を太陽電池・燃料電池・蓄電池の3電池を連動させた「グリーンファーストハイブリッドゼロ」とし、ここを停電時に「安心拠点」とする明確な計画防災タウンです。なお、全棟ゼロエネルギー住宅のスマートタウンは福島県において初となります。

■「スマートコモンステージ森合」の特長

- ①ネットゼロエネルギー住宅「グリーンファースト ゼロ」で1世帯当たり年間約30万円※の光熱費を削減
- ②37世帯で、約38世帯相当分の電力(年間)※を近隣に供給し、電力不足対策とCO₂排出量削減に貢献
- ③3電池連動の「グリーンファースト ハイブリッド ゼロ」区画を災害時「安心拠点」とする計画防災タウン

政府は全消費電力量の約3割を占める家庭部門で住宅のゼロエネルギー化を推進し、一次エネルギー消費量が正味（ネット）で概ねゼロとなる「ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス（ZEH）」を2020年までに標準的な新築住宅とすることなどを掲げています。

これを先取りする形で当社が本年4月に市場投入した「グリーンファーストゼロ」は、「アルゴンガス封入複層ガラス」「高断熱サッシ」を採用した「ハイグレード断熱仕様」や「高効率エアコン」「LED照明」などの省エネ設備を採用し、さらに日射・通風配慮設計などのパッシブ技術を取り入れることで、快適に暮らしながら、エネルギー消費量を大幅に削減します。さらに太陽電池や燃料電池による創エネで「エネルギー収支ゼロ」を目指すゼロエネルギー住宅です。そして光熱費も1世帯当たりで年間約30万円の削減が可能※です。

「スマートコモンステージ森合」は、全37棟をこの「グリーンファーストゼロ」にします。これによる街全体の余剰電力は年間約138MWh。一般家庭約38世帯分に相当する電力※を供給するクリーンな“まちの発電所”として機能すると共に、年間で約162t（スギの木約11,500本相当）のCO₂排出量削減※にも貢献します。

また「スマートコモンステージ森合」では、14棟を3電池（太陽電池・燃料電池・蓄電池）連動制御の「グリーンファーストハイブリッドゼロ」とします。この棟は停電時でも電気とお湯が使える生活が可能ですので、災害時に街の「安心拠点」となります。

■「スマートコモンステージ森合」の概要

所在地	福島県福島市森合字上森合13-1他
交通	JR福島駅より約2.4km
総開発面積／総区画数	10,970.79m ² ／37区画（第1期22区画、第2期15区画）

当社は「安全・安心」「健康・快適」「エネルギー」「見守り」の4つのキーワードを軸に、全国15カ所で「スマートコモンシティ」を展開しており、環境に配慮しながらエネルギーの自立を図り、安心で豊かなコミュニティを育む持続可能なまちづくりを進めてまいります。

また、ZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）の普及にも積極的に取り組んでおり、4月に発売したZEH対応商品「グリーンファーストゼロ」の直近の戸建住宅に占める割合は、約48%に達しています。今後も家庭部門でのエネルギー消費削減を強力に進めてまいります。

●本件に関するお問合せ先

積水ハウス株式会社 広報部（大阪）TEL06-6440-3021 （東京）TEL03-5575-1740

積水ハウス株式会社 福島支店 TEL024-536-3333

■積水ハウス独自のスマートタウン「スマートコモンシティ」

2011年3月に発生した東日本大震災に伴う深刻な電力不足を受け、人々のエネルギーへの問題意識や再生可能エネルギーへの関心、エネルギーの自立やコミュニティの再生をテーマとしたスマートハウス、スマートタウンへの期待が高まりました。

これらを受け、3電池搭載のスマートハウス「グリーンファーストハイブリッド」を軸に「安全・安心」「健康・快適」「エネルギー」「見守り」の4つのキーワードで、「SLOW & SMART」な豊かな暮らしの実現を目指す積水ハウス独自のスマートタウンが「スマートコモンシティ」です。

まち全体で省エネ・創エネに取り組み、電気エネルギーの自給自足や、「まち全体が発電所」となって近隣への電力供給を目指します。災害時や停電時にも普段とほとんど変わらない生活ができる3電池システムや制震システム「シーカス」などを備えた住宅による災害に強いまちづくり、そして、住民とともにコミュニティを育むまちづくりを進めています。



■「スマートコモンステージ森合」街区図及び「安心拠点」予定区画図

●:安心拠点(グリーンファーストハイブリッドゼロ)を表す。

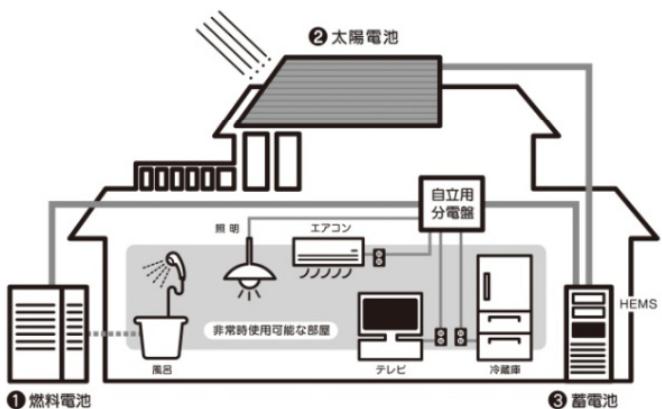


第Ⅰ期分譲:22区画

第Ⅱ期分譲:15区画

■グリーンファースト ハイブリッドゼロ

「グリーンファースト ハイブリッドゼロ」は、3電池（太陽電池・燃料電池・蓄電池）とこれらを連携制御するHEMSを搭載したZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）です。停電時、何も操作することなく自動的に電力供給システムが稼働し、予め設定したコンセントや照明がそのまま使える等と共に、燃料電池によってお湯の供給も可能です。非常時でも日常とほとんど変わらない生活が可能です。



【グリーンファーストハイブリッド イメージ図】

※数値計算条件 福島市に建つ135m²、4人家族、専業主婦、東北電力、福島ガス、太陽光発電4kW、燃料電池搭載の仕様で算出。

比較対象は1990年建築の同規模の旧省エネ仕様の住宅。一般家庭の電力消費量、年間3,600kWh（電気事業連合会公表値）として試算。

※「ネット・ゼロ・エネルギー」については「住宅・ビルの革新的省エネ技術導入促進事業補助金」（経済産業省）の評価方法に基づいています。